

国語⇒文章作成能力の向上と基礎基本の定着に努めた結果、段落や句読点など文章作成時の決まりを意識した文章を書けるようになってきた。一方で、思いや考えを詳しく書き表すことに課題が残り、簡単な言葉や単語を用いて書いてしまう姿が見られた。

社会⇒資料提示や児童の生活に関わる事例を用いるなど、導入を工夫したことで、自ら問いをもち、意欲的に調べ学習に取り組む姿が多く見られるようになった。課題としては、調べたことから答えを導き出す際に、自身の生活と調べて分かったことを関連付けて考えることができない児童が多くいた。

算数⇒習熟度別学習により、理解が深まった児童が多く見られた。掛け算、割り算の筆算などの基礎的な内容に課題のある児童がいる。基礎基本の学習の繰り返し学習が必要である。

理科⇒問題、予想、実験、結果、考察、結論の流れで実験を行っていくことを中心に据えた授業をしていったことで、根拠や理由を自分なりに示しながら学習に取り組める児童が増えた。一方で、知識の定着には課題が残った。

I 大田区学習効果測定の調査結果と概要

△：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点

≒：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点

▼：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国語		社会		算数		理科		英語	
全体	△		≒		≒		≒		△	
観点別	△	△	≒	≒	△	△	≒	≒	△	△
	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現

1 教科全体

国語・英語の全体の正答率は、目標値を8ポイント上回り、国語については、4年生・5年生の頃から高い水準を保っている。また、社会・算数・理科の全体の正答率は、目標値と同程度となった。

2 観点別

国語・英語の観点別正答率は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」とともに目標値を大きく上回った。また、社会・算数・理科の観点別正答率は、いずれも目標値と同程度の結果となった。

Ⅱ 教科ごとの授業改善プラン

1 国語・社会・算数・理科・英語

【国語】

ほとんどの領域で目標値を上回っている。特に、「言葉の特徴や使い方に関する事項」についての正答率は目標値を10ポイント以上も上回っている。一方で、「書くこと」については、無回答の児童が他領域に比べると多く見られた。文章を書くことに対して抵抗感なく取り組めるよう、自分の考えを書いて表現する学習を取り入れたり、読書など様々な文章に触れる機会を増やしたりしていく。

【社会】

領域別でみると、全体的に目標値とほぼ同じ正答率となっている。観点別でみると、思考・判断・表現については、目標値を5ポイント上回っている。引き続き、導入部分を工夫して児童の興味関心を高められる授業を進めていく。「国土」については正答率が低くなっていることから、知識・技能分野の向上を図るため、重要な用語を反復して覚えられる時間を設けたり、資料を読み取る機会を意図的に増やしたりした授業づくりをしていく。

【算数】

領域別にみると、「変化と関係」についての正答率は目標値を約9ポイント上回っている。特に比例・単位量あたりの大きさに関する問題では、正答率が目標値を大きく上回り、得意分野であることが分かる。一方で、「図形」の正答率は目標値と同程度であるが、円に関する問題では目標値を下回っている。また、記述形式の正答率は目標値と同程度ではあるが、選択・短答形式の問題と比べると上回る幅は小さいという傾向がみられる。「図形」領域に関して基礎問題の定着を図るとともに、与えられた情報を正確に読み取り、説明する力をさらに伸ばせるような授業づくりに取り組んでいく。

【理科】

内容別でみると、「植物の発芽と成長」「ふりこのきまり」「物のとけ方」について、目標値を下回っている。特にふりこのきまりでは、全ての設問で、目標値を下回っている。苦手意識をもっている児童が多いので、まず、導入時に資料や具体物を提示するなど、興味・関心を高める工夫を行う。基礎的な知識に不足があるので、重要な言葉や実験方法等、細かく反復指導を行い、基礎的基本的な力を身に付けさせたい。

【英語】

目標値に対して、どの領域においても約10ポイント上回っている。普段の授業においても、意欲的に取り組み、英語でのスピーチでも堂々と発表する姿が多くみられる。引き続き、外国語教育指導員と協力しながら、自信をもって発表できる環境づくりや、ゲームなどを取り入れて英語で表現することの楽しさを味わえる活動を行っていく。

2 音楽・図工・家庭・体育

	児童の実態	おおむね良好：○ 改善が必要：△	授業改善プラン
音楽	●知識・技能 ・自然で響きのある声を目指して豊かな声量で歌うことができている児童と、変声期の体の変化に応じた発声の仕方に戸惑いを感じている児童がいる。 ・基本的な奏法を身に付けてパートの役割を意識した演奏ができる児童と、演奏の技能に自信がもてない児童がいる。 ●思考・判断・表現 ・音色の違いがもたらす曲想の変化を感じて演奏することができるが、一部、技能が課題となる等の理由で努力を要する児童がいる。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・毎時間の学習を振り返ることで、自分の理解を整理し、次の学習へ向けて見通しをもち、主体的に取り組むことができている。	△ △ △ ○	・毎時間の常時活動などで継続的に技能を積み重ねる場を設定する。 ・実感を伴って理解することができるよう、聴くだけでなく実際に演奏する活動を取り入れる。 ・今後の学習に見通しをもって取り組んでいる児童の記述を紹介して共有する。
図工	●知識・技能 ・題材に対して、つくり方を理解し、創造的な作品をつくらうとしている。 ●思考・判断・表現 ・自分の思いや考えを言葉で表現し、伝えることが苦手な児童が多い。 ・友人の作品のよさを見付けられる児童は多いが、それを言葉で表現することが苦手な児童が多い。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・色や形に関心をもち、粘り強く取り組む児童が多い。少数であるが、自分の作品に自信がもてずに、制作が進まない児童もいる。	○ △ ○	・児童の発想が広がるような題材の準備や導入の仕方を研究し実践する。 ・作品のめあてを意識させ、それにあった振り返りや鑑賞ができるように指導する。また、鑑賞に適した語彙を提示する。 ・児童が自信をもって、最後まで制作に取り組めるような言葉掛けを考えて実践する。
家庭	●知識・技能 ・家庭科で学習したことを土台として家庭生活においても具体的に生かすことが大切であることに気付いた児童が多い。 ・新しく習った技能をすすんで取り入れようとしていたりしている。 ●思考・判断・表現 ・日頃の生活において、学習したことを活かした生活の工夫等の発展的活動までできている児童もいるが、生かしていない児童が多い。 ・自分の考えや振り返り、スライドでの課題において自分の言葉で表現することが難しい児童がいる。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・学習したことについて家庭生活中で具体的に実践し、喜びを味わえ	○ △ △ ○	・技術の向上については、授業時に繰り返し練習する時間を短時間設ける。 ・家庭内での宿題を取り入れ、実践活動を増やす。 ・めあてと合った振り返りができるよう、文章のフォーマットを用意する。

	ている児童が多く見られるようになっている。 ・最後まで作品に向き合い、より良い作品を目指す児童が多い。	○	・作品の発表を通して認め合うことのできる時間を増やす。
体育	●知識・技能 ・運動のポイントについて、少しずつ理解が深まってきている。 ・知識はあるものの、技能に結びつかない児童もいる。 ●思考・判断・表現 ・チームで話し合って作戦を立てたり、練習方法を選択したりする様子が見られる。 ・自己の課題を見つけることはできるが、その解決に向けた方法を考えたり、適切に選択したりすることができていない児童が多い。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・チームで協力してゲームに取り組んだり、運動のポイントを伝え合ったりする姿が多くみられた。 ・準備や片付けを素早く丁寧に行うことができる。 ・苦手意識がある運動に対して、主体的に学習に取り組むことのできない児童がいる。 ・勝つことに過剰になり、勝敗を受け入れたり、助け合って運動したりすることができないことがある。	△ △ ○ △	・複数の練習の場を用意し、自身の課題にあった練習方法で取り組めるようにしていく。 ・振り返りの充実を図る。課題把握のために、動画を撮って自身の動きを振り返らせる。 ・称賛の声掛けを増やしたり、達成感が得られるような支援をしたりする。